

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1428
施設名	野沢そらの木保育園
施設所在地	東京都世田谷区野沢2-9-14
法人名	社会福祉法人相愛会

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

生きる

<テーマの設定理由>

園周辺には多くの公園があり、子どもたちは日頃からさまざまな生き物に興味を示していました。ダンゴムシを園に持ち帰って飼育した際には、多くの子どもたちが毎日観察を行い、その日の様子を保育者に伝えたり、友達同士で気付いたことを話し合ったりする姿が見られました。また、室内では『うんちのたつじん』や『からだのしくみ』などの図鑑や絵本を好んで読む姿も多く見られました。

このような子どもたちの興味・関心を受け、生き物やその生態について理解を深めるだけでなく、命の大切さや小さな生き物との関わり方について、実際の経験を通して自ら気づき、学びを深めてほしいと考え、本活動を計画した。

## 2. 活動スケジュール

9月：カブトムシの夜の動き上映。公園で捕まえた蟻を蟻の巣キットに入れ観察  
10月：ザリガニの飼育を始め、図鑑を見てご飯や生態をみんなで話し合う  
11月：メダカの飼育を始める。水の生き物への興味が出てくる  
12月：『生きる』というテーマから、仕事へ興味が広がった園児に保育士体験をする  
1月：仕事への興味が広がった園児は電車とバスの博物館へお散歩へ行く  
2月：水の生き物への興味がある園児は水族館へ遠足に行く  
3月：生き物に詳しい保護者の方を招き、生き物への理解や興味を深めるための講話を実施

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・昆虫や水の生き物を飼育する虫カゴ
- ・公園で生き物を探し、観察する虫メガネ
- ・生き物コーナーの棚
- ・夜の姿を観察する暗視カメラ
- ・色んな生き物の図鑑、絵本
- ・活動を掲示するホワイトボード
- ・魚を観察する水槽

### 4. 探究活動の実践

<活動の内容>

公園ではダンゴムシや蟻を捕まえて虫カゴで観察。蟻はキットで蟻の巣の観察。カブトムシの夜の姿が見たいという声から、暗視カメラでの録画を上映。水の生き物へ興味が出てきたというつぶやきからメダカの飼育、ザリガニの飼育が始まった。生き物に詳しい保護者の方に来ていただき、生き物について話してもらう。職業と生き物への興味に分かれてきたので、電車とバスの博物館と水族館の組に分かれて最後は遠足へ行き、園にも大きな水槽を置いて引き続き生き物への興味が続くようにした。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

生き物の飼育や観察を通して、子どもたちがさまざまなことへ興味を広げていく姿が見られた。日々関わる中で、「夜はどんなふうに過ごしているんだろう」「どんなうんちをするんだろう」「何を食べるんだろう」「どうやって赤ちゃんを産むんだろう」など、多くの疑問や気づきが子どもたちから聞かれた。また、友達同士で発見したことを伝え合ったり、「調べてみよう」と話し合ったりする姿も見られた。

保育者は子どもたちのつぶやきや疑問を受け止め、図鑑を用意したり、実際に生き物について学べる場所へ出掛けたりする機会を設けた。子どもたちは図鑑で調べたり、水族館の職員に質問したりしながら、自ら知識を深めていった。興味を持ったことについて主体的に学ぼうとする姿や、友達や保育者と発見を共有しながら探究を進める姿が見られた。



ザリガニを水槽に入れるよ



電車とバスの博物館に遠足へ



ザリガニの観察をするよ



隅田水族館に遠足へ



クラゲの観察たのしいね



ザリガニの上映会  
みんなが園にいない日は何してるんだろ



玄関に水槽を設置。  
毎日お魚の観察ができるようになりました

## 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

日々の保育の中で、子どもたちの気付きや発言に丁寧に耳を傾け、その興味や関心に沿って一緒に調べたり観察したりする機会を大切にしました。子どもたちは新たな発見を重ねる中で「もっと知りたい」という意欲を高め、主体的に活動へ参加する姿が見られた。

また、子どもたちの興味の広がりに合わせて環境を整えたり活動内容を工夫したりすることで、探究的な学びを深めることができました。子ども主体の保育の重要性を改めて実感するとともに、保育者自身も子どもたちと共に学び、保育の質の向上につながる取り組みとなった。